

■通学路の現状

子供達の安全と健康を考えると、通学路はとても重要である。日本の道路整備だが、都市部ではよくあることだが、通学時間帯、狭い道路を車が占有して、歩行者は歩きにくい危険だ。たまに暴走車両が突っ込んでくることもある。(最近は特にこの手の事故が多い)

また自転車は、歩道からも車道からも閉め出されているため、車道を走れば車に注意し、歩道を走れば歩行者に気をつかわないといけない。そもそも歩道を走ることは交通違反だ。このように自転車通学において、先進国においては道路環境は最低のレベルなのだ。

日本の地方都市でよく見るのだが、大型トラックが通る国道脇をヘルメットをかぶって、学校へ向かう小学生。危険きわまりない光景だ。さらに、雨の日、傘をさし通学路を歩く子供達に水しぶきをかけて1台のミニバンが走り抜ける。「あれっ」と思うと、学校の校門の前で子供を降ろす。まさにモンスターペアレントとその子供だ。しかし、雨の日の通学の危険性を考えると、そのような行動にでもしょうがない。これが地方都市も含めた今の日本の通学路の現状だ。こんな光景を見ると、これが先進国かと考えてしまう。

ともかく学校において、安全な通学路と通学手段は学校施設と同じように重要な項目である。しかし、学校建築において、あまり真剣な議論対象とはなっていない。

その点欧州などの環境はどうなっているのだろうか、2006年5月実施したAEE主催(REFI協賛)の欧州学校視察の番外編として簡単にご紹介する。

■自転車視察

さて、欧州(オランダとドイツ(またはデンマーク、フィンランドなど)はLRT*1と自転車が都市交通の主軸となっている。脱車宣言した国々だ。当然学校施設のある地域環境も大きく変化しているようだ。特に学校視察時に感じたのが、子供達の通学手段である。小学校も含めて大学まで自転車通学がメインとなっている。それは学校設備と学校施設を取りまく地域の環境が大きく影響している。ここで、自転車のある風景(写真)を元に幾つか紹介する。

■オランダ編

オランダは自転車先進国だ。

オランダ、特にアムステルダム近郊の都市部の通勤や通学手段のメインはLRTと自転車だ。オランダの自転車はダッチバイクと言う日本で言えば実用車みたいな頑丈な自転車だ。その自転車を世界一大きい体でがんがん漕ぐ。おしゃれなお嬢さんも、お婆さんも、おじさんも、妊婦も、子供達も、見ていて清々しい。当然学校施設も自転車での通学を基本にエンタランスの処理がされている。まず駐輪場からスムーズに学校施設へ行ける。そのため駐輪場は学校の表にあるのが基本だ。学校の正面の写真を撮れば駐輪場の自転車が入る。こんな事は日本の学校ではあまりない。



オランダのNOVA カレッジのエンタランスの駐輪場



自転車専用レーンに人や車は入れない



都市部の交通はLRTと自転車がメインとなっている。車は少ない。

オランダは自転車専用道路の整備が行き届いている。また、自転車の走行速度は時速25km以上なので、交通ルールがよく分かってない日本の旅行者などが、自転車レーンに入ったりすると、自転車走行中の人や警察に怒られる。つまり速度がでており危険だからだ。自転車はエコロジーで速い、という認識である。日本では基本的には自転車は歩道走行出来ないのだが、車社会優先のため、自転車専用道の整備をする前に、弾力的な処置として歩道を走ることを自転車に許しているため、自転車の速度は遅いという認識だ。

写真を見て貰うと、妊婦さんと自転車。リヤカーみたいだが、意外と普及している。全て自転車屋さんのオーダーメイドだ。日本円で10万円以上する。自転車の値段は日本のママチャリと比較すると高い。ただきちんと走れるし、何十年と使えるので、中古自転車市場も大きい。交通手段としての価値は高く。当然値段も高い。

■フィンランド編

訪れた時期が5月初旬、霰が降るように寒い時期だったのか、オランダほど自転車のある風景には出会えなかった。しかし視察した学校において、多くの子供達が通学に自転車を使っていた。大学から小学校まで自転車通学が多い。また道路整備が行き届いているので、通学路のほとんどを自転車専用道路を辿って学校まで行ける。そのためか学校の駐輪場は凄いいろになっている。自転車の種類は天候が悪くても走れる丈夫なMTBが多い。

小学校など幼い子供共達が自転車通をするには、交通ルールの指導の徹底、地域の環境、道路整備は不可欠だ。また通学時間帯の車運行にも配慮など、複合的な条件が必要だが、視察した地域に限り全てを満たしているようだ。



オランダの女性は遅い、リヤカー自転車



全てオーダーメイドの自転車だが、この形は多い



ヘルシンキ大学の学内、図書館前の広場



ヘルシンキの幼稚園から中学校までが通う学校、駐輪場はないので適当に置いている。

*1 -LRT(Light Rail Transitの略)、次世代型の路面電車システムをいう。ライトレールともいう。環境負荷の少ない公共交通、地域に密着した細やかなサービス、低床式車両や停留所のバリアフリー化による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面も考慮するなどの特徴をもっている。